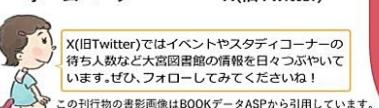
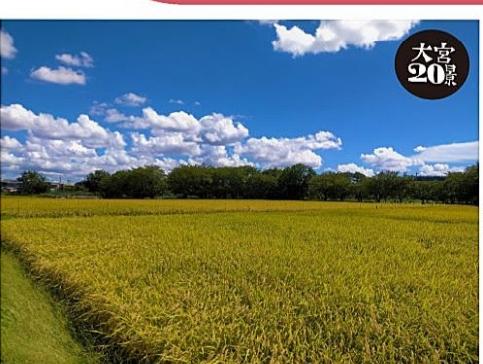




## 書庫の本 お持ちます

大宮図書館  
ホームページ大宮図書館  
X(旧Twitter)

す心金ら田るす桜鶴かか  
すにせがとがが川つら桶  
打輝で稻付、見はて朝川  
たく一穂近秋も、流霞・  
れ姿面をの春れに上  
まに黄実水なでのる向尾



鳴川の流れ、  
土手の桜と  
三橋の田んぼ



紹介した本  
『ののはな通信』  
三浦しん一著  
KADOKAWA 2018年

紹介者：麦茶

です。  
いうことで、次回のテーマは  
「手紙」

紹介した本

『ののはな通信』  
三浦しん一著  
KADOKAWA 2018年

紹介者：麦茶

## 参考資料

職業柄、読書は好きだ。けれど、他にも好きなことがある。コンピュータゲームだ。けれど、他にも好きなことがある。最近のマイブームは歴史シミュレーションゲーム。国志を題材にしたものを見ている。一人の君主になり国を統治する。他の国の戦争・外交によって中華統一を目指す内容だ。ゲームは史上登場した人物では、一人一人名前がわかる。それが武将たちでは、たまたま浮かぶ。この武将たちは歴史上やあるいは創作の中でもうこんな人物たちがいるのか? しかし、物語の中では、ある人が「三国志演義」を手に取ってみる。古典はあるが、ゲームの知識があるのですぐなりと物語に入ることができる。血湧き肉躍る英雄たちの生き様。ゲームに劣らない熱い物語が繰り広げられている。また、歴史書にも物語を伸ばす人物語の「三国志演義」にも物語がある。ゲームの「三国志」に向かう。そうすると、それまで駄目だった武将たちが、それそれの物語を持って立ち現れてくる。ゲームが読書をいざない。読書がゲームを豊かにする。二つの世界に私はまだこのゲームで遊んでくる。これは別に歴史に限られた表現の人々の姿がそこにはない。読書もゲームも本来美しい物語はある。特に境遇の下に生まれた経験は別の世界に私たちを導いてくれる。ゲームの話をもう一つ。宮部みゆきの「ICO」霧の中で得た経験は別の世界に私たちを導いてくれる。この古城を冒険する物語だ。これは同名のコンピュータゲームで遊んでいるのだ。私はゲームが好きだ。二つとも違うのが好きだ。二つとも遊んでみたいと思っている。そして、ICOがついてくるのだから、世界が広がつてしまふ。読んでも読みづらい。遊んでも遊びづらい。そんな世界が広がっている。

## EARTH,WIND&amp;FIRE SUPERHITS

皆さんはこの秋、どのようにお過ごですか? 私は、読書の秋!と言いたいところですが、この夏に激増してしまった体重を減らすべく、スポーツの秋にしたいと思います!

このスペースでは、私がウォーキングや筋トレ中に、BGMとして愛聴しているEarth, Wind & Fireの『September』について紹介したいと思います。

Earth, Wind & Fireの代表曲の一つであるこの曲は、1978年に発表されました。日本でも人気が多く、発表から45年経った現在でも、テレビやラジオ等さまざまな場所で耳にする曲ではないでしょうか。夜の博物館を舞台にした映画のエンディング曲と言ったらピンとくる人もいるかもしれませんね。

この曲、題名こそ9月ですが、実は12月の曲なんです! 洋楽を聴くとき、歌詞の内容を意識せずに聞いてしまうので、このことを知ったときはなかなか衝撃的でした。

『September』の収録されたアルバム『EARTH, WIND & FIRE SUPERHITS』の解説書には歌詞だけでなく、和訳も載っていますので、歌詞の内容が気になった方はぜひ確認してみてください。このCDには他にもノリが良く、楽しい曲がたくさん収録されています。ジョギングやウォーキング等、運動のお供にオススメです。

『スーパー・ヒッツ』  
アース・ウインド&ファイア／演奏  
ソニー・ミュージックエンタテインメント 2000年

## 歴史部

## 歴史メシのススメ?

掃除に洗濯といろいろある家事の中で、私は「料理」が一番好きだ。ここ最近、古いレシピに興味を持つようになり、今回この記事を書くために調べてみることにした。昔の料理というと、なんとなくおいしくなさそう……と思っていたが意外や意外、素材の味を生かしたおいしそうなものが多くあるのだ。

最初に目を引いたのは、古代メソポタミア料理。「古代小麦とラム肉のシチュー」うーん、文字だけでもすでにおいしそう! ラム肉の癖が嫌いという人も多いが、昔からよくジンギスカンを食べていた私は大好物なのだ。なにより、この時代にもう「野菜だし」が発明されていたことにも驚いた。なぜ、私は長年昔の料理=マズいと思っていたのだろう……と考えている内にふと思いついた。社会科の資料集で見た、縄文時代の料理見本はみんな「茶色」なのだ。

そこで、もう一度日本の料理史の本も見てみることにした。写真が載っているんだろうという理由で、児童書を探したところ、早速いい本を発見。ただ何故だろう、改めて見るとマズそうには見えない。この時代の人たちにこんなこと言ったら怒られるだろうが、平安時代の庶民が食べたという強飯(こわいい)に野菜の煮物、鮎の煮物なんてむしろ御馳騒華なお貴族様の食事より断然おいしそうに見える(たぶん、学生時代の私は毎日ラーメンと唐揚げでもいいと思っていたからなのだろう)。特においしそうなのが江戸時代の料理だ。いわゆる「レシピ本」も出回っていて、浅野高造(あさのこうぞう)なる人物が書いた『素人包丁』は、今でいう手抜き短料理本だったようだ。紹介されていた「蕪の風呂吹き」なんかは、これと似たものをむかし作ってもらったような記憶がある。

なお、料理をするともれなくついてくるのが片付け。「本当の料理上手は片付け上手」と祖母から言われてきたが、もっと要領良く片付けしようと反省している。



現代で手に入る食材で再現調理をしてみました!  
左・古代小麦とラム肉のシチュー 右・蕪の風呂吹き

## 参考資料

『歴メシ! -世界の歴史料理をおいしく食べる-』

遠藤雅司/著 柏書房 2017年

『タケ割り日本史-アクティブラーニング対応-1 食べ物の日本史』

講談社/編 講談社 2020年

『江戸の食卓に学ぶ-江戸庶民の“美味しすぎる”知恵-』

車浮代/著 フニ・プラス 2015年

## 青春バトン